

2005年度 社団法人日本青年会議所 東海地区協議会
第32回 J C 青年の船「とうかい号」本部役員会議
事業計画書

< 審議事項 >

議案名	委員会事業に関する件		
ファイル名	研長 04h 審 01	作成年月日	2004年12月01日(水)
上程者	研修委員長 加藤徳弥		
議案作成者	研修委員長 加藤徳弥		

上程スケジュール：

上程会議名	会議開催年月日	上程形式
第02回 本部役員会議	2004年10月19日(火)	協議
第03回 本部役員会議	2004年11月18日(木)	協議
第04回 本部役員会議	2004年12月16日(木)	審議
第01回 地区役員会議	2005年01月14日(金)	審議

担当部長確認日：2004年12月01日(水)

事務局長確認日：200X年XX月XX日(X)

1. [事業名]

第32回 J C 青年の船「とうかい号」
研修委員会 委員会事業に関する件

2. [事業目的(対外)]

青年会議所が目標とする明るい豊かな社会の実現のために、研修を通して、自己の原点(こころ)の見直しから、存在意義の気づき、人とのつながり、自然とのつながりを深く認識し、未来へのつながりを能動的に感じることでできる青年になれるような研修を企画、立案、実践するために事業計画を策定する。

3. [事業目的(対内)]

研修委員会全員が船内での研修の重要性を認識し、委員全員が予定される研修を受講し、更なる個人の資質向上、研修の内容充実を目指すために事業計画を策定する。

4. [事業内容]

洋上研修及び国際交流の実施

5. [実施日時]

2005年06月04日(土)～2005年06月11日(土)

6. [実施場所・会場]

船内

7. [予算総額]

¥3,050,000-

8. [事業の対象者]

対外対象者：東海地区内の原則 20 歳から 35 歳までの青年 428 名国際青年 16 名

対内対象者：東海地区協議会内の 89 青年会議所会員

9. [外部協力者・協力種別]

10. [参加員数計画及び実績]

	計画	実績
外部参加者（一般団員）	428 名	名
：（国際代表青年）	16 名	名
：（講師他）	8 名	名
内部参加者（乗船 JC 団員）	148 名	名
：（非乗船 JC 団員）	70 名	名
合計	670 名	名

11. [実施組織]

第 32 船 J C 青年の船「とうかい号」研修委員会

12. [実施までのスケジュール]

13. [実施プログラム]

14. [前年度よりの引継ぎ事項]

15. [本年度の工夫と期待される効果]

16. [協議のポイント]

第 3 2 回 J C 青年の船「とうかい号」研修委員会の事業計画（案）につきましては、別紙の通りです。よろしくご協議ください。

17. [依頼事項]

18. [申し送り事項]

19. [添付資料、配布・回覧資料]

添付資料

	区分	資料名
1	対象	第 3 2 回 J C 青年の船「とうかい号」委員会事業計画（案）

20. [第 2 回本部役員会議における意見と対応]

1) 意見：国際代表青年の研修はどう考えるか。

対応：6 ヶ月の国内生活を募集条件としているため、特別扱いなどはせず、一般団員と同じように研修に参加して頂く。

2) 意見：研修委員長の研修に対する思いを聞かせて欲しい。

対応：自己認識、自己の存在意義の気づきなどの今まで実施されてきた自己啓発などの研修以外にも自然とのつながりを大きな研修の柱と考える。自然の叡智に代表される持続可能な明るい豊かな社会の実現に向け、個と公の調和がとれた青年になって頂く研修を行う。

3) 意見：持続可能な明るい豊かな社会の実現に欠けているものとは何か。

対応：自分以外のものに対する思いやりの欠損が大きな問題だと思う。自己啓発、気づきも含め、他人や自然とのふれあいを感じ、能動的に未来へのつながりを感じる必要がある。

[第3回本部役員会議における意見と対応]

特になし

第32回JＣ青年の船「とうかい号」

委員会事業計画（案）

委員会	研修委員会		
委員長	加藤 徳弥（江南）		
副委員長	市川 裕隆（四日市） 後藤 剛久（羽島）	河合 辰哉（富士） 谷川 佳隆（常滑）	
総括幹事	廣瀬 大造（江南）	委 員	針谷 宏治（御殿場）
運営幹事	大里 賢史（江南）	〃	幸脇 可典（中津川）
会計幹事	北畑 祐二（江南）	〃	各務 正敏（美濃加茂）
広報幹事	佐藤 栄聡（桑名）	〃	中根 正和（岡崎）
委 員	仲井 衆和（桑名）	〃	
〃	梅林 賢一郎（袋井）	〃	
〃	太田 英樹（藤枝）	〃	
〃	角田 泰（三島）	〃	
委員会スローガン	大きな夢を自分のものに、豊かな愛をすべてのものに		
委員会基本方針			
平生では認識し難い現在の自分自身を真摯に見つめ直して頂き、自己の原点（こころ）を見つめ、仲間との生活（人とのつながり）や自然とのふれあい（自然とのつながり）を通して、自分の存在意義に気づき、大きな夢（目標）を創造し、豊かな愛（思いやり）をすべてのものにそそぎ、未来へのつながりを常に意識することができる個と公の調和がとれた公共心溢れる自立した青年になれるような素晴らしい研修を企画立案し、講師の選定を行い、的確に実践する。			
	行動の目的及び内容		
乗船前	<ol style="list-style-type: none"> 1．委員会内組織・役割分担の確立 2．研修内容の企画・検討・立案 3．講師の選定・決定 4．講師との打ち合わせ 5．タイムスケジュール確定 6．研修マニュアル・研修資料の作成 7．委員会メンバーの研修 8．本部・各委員会・事務局との連絡調整 9．委員会活動に伴う必需品の調達 10．ハンドブック「委員会からの依頼事項」の作成 		
乗船中	<ol style="list-style-type: none"> 1．円滑かつ充実した研修の運営 2．講師との船内打ち合わせ 3．チームアワー時の研修案内 4．研修リハーサル 5．研修内容の再確認と反省・改善 6．本部・各委員会・事務局との連絡調整 		
乗船後	<ol style="list-style-type: none"> 1．講師への御礼 2．報告書の作成 3．第33船への引継ぎ 		
備 考			

